

事業目標	ストラクチャー評価(構造)	プロセス評価(過程)	アウトプット評価(事業実施量)	アウトカム評価(結果)
<p>評価項目・評価指標 目標値</p>	<p>(1) 仕組みの構築 (2) 有識者会議で協議 (3) 予算の確保 (4) 県事業と市町村事業の調整 (5) 介護部門と国保部門との連携 (6) 事業開始のPR (7) 協賛店の確保 (8) 次年度の事業実施の準備</p>	<p>(1) 連携予定市町村の連携開始に向けた準備、内容調整、フォロー (2) 未連携市町村の連携開始に向けた協議</p>	<p>(1) 会議開催 2回 参加市町村数 54市町村(100%) (2) 市町村からの相談件数 (3) 協賛店からの相談件数 (4) 啓発資料の作成枚数 チラシ：15,000枚 ポスター：200枚 (5) 県民だよりによる周知 (6) 委託業者との打合せ 12回以上</p>	<p>(短期的なアウトカム評価) (1) 連携市町村数の増加 (2) カード交付枚数の増加 (3) 年齢別参加者数の増加 (4) 協賛店数 500店</p> <hr/> <p>(長期的なアウトカム評価) 健康ちば21(第2次)の評価指標で該当する項目の改善 ・ 県の健康寿命の延伸 ・ 栄養・食生活に関する項目 ・ 身体活動・運動に関する項目 ・ 循環器疾患に関する項目等</p>
<p>実施状況と評価</p>	<p>(1) 要綱・協賛規約の策定、専用Webサイト、申請台紙の雛形(「ち～バリュ～モデル」)、啓発資料、優待カードの作成等を実施することができた。(達成) (2) 第1回健康ちば地域・職域連携推進協議会(書面開催)にて事業の進捗状況を報告し、意見をいただいた。(達成) (3) 事業継続にあたり必要な額の予算を要望し、確保することができた。(達成) (4) 各市町村が独自に定めているポイントの付与条件を考慮し、市町村間で大きな差が生じないように、現状調査を基に優待カード(「カード」)交付基準の市町村別想定案を作成し、調整した。(達成) (5) 高齢者福祉課・保険指導課と打合せを行い、各課の事業を共有し、協力体制の構築ができた。 ◇本事業の市町村説明会 国庫補助制度について紹介。両課の担当者が参加。 ◇保険指導課が国庫補助の市町村ヒアリングで、事業の実施状況を確認。 ◇高齢者福祉課主催の市町村健康関係担当者連絡会で、本事業について説明。(達成) (6) 知事定例記者会見(R2.11.26)、県民だより(12月号)により広く県民に周知することができた。(達成) (7) ◇事務局からの店舗への働きかけ 電話、郵送、SNS広告(Instagram、Facebook、動画広告)等実施した。 ◇県から 各生活衛生同業組合、千葉県商工会議所連合会、千葉県商工会連合会への協力依頼、県民だより10月号、千葉経協報12月号、ミレニアム12月号、市町村広報誌の活用等を行い、広く募集することができた。(達成) (8) 次年度の業務委託を公募(プロポーザル)し、募集説明会(Web)・選定委員会(書面)を経て、委託候補者を決定。次年度の仕様書(案)を決めることができた。(達成)</p>	<p>◇現状調査(6月)の実施 市町村ポイント事業の実施状況把握、課題等の聞き取りを実施。課題については、対策案を示し働きかけることができた。 ◇連携意向調査(9月)の実施 ◇ちばチャレ通信の発行 市町村の連携開始に向けた検討を促進するため、事業の最新情報を記載した「ちばチャレ通信」を3回発行し、情報共有を図った。 (1) ち～バリュ～モデルを活用したカードの交付基準の調整、カードの送付、専用Webサイトの掲載内容の調整等を行うことができた。(達成) 【ち～バリュ～モデル利用市町村】 3市町/連携開始12市町 しかし、実施状況調査や課題の聞き取り等のフォローはできなかった。(未達成) (2) 2市 電話相談18回 1市 打合せ1回(達成)</p>	<p>(1) 市町村説明会の実施 ・ R2.8.4、8.7開催 ・ 参加市町村数 44市町村(81.5%) (うち8市町村がオンライン) ・ 欠席市町村には、資料、当日の質疑応答や事務局からの説明概要を記載した会議概要を送付。必要に応じて個別説明を実施することができた。(一部未達成) (2) 29件の相談に対応することができた。 (3) 2店からの相談に対応することができた。 (4) チラシ20,000枚作成のうち14,000枚配布、ポスター200枚作成のうち127枚を配付し事業周知ができた。(達成) (5) 以下より事業周知を行うことができた。 県民だより12月号 SNS記事投稿 18回 動画広告13,000回視聴(達成) (Instagram、Facebook、Twitter) (6) 13回行い、進捗管理を行うことができた。(達成)</p>	<p>(短期的なアウトカム評価) (1) 12/54市町村(22.2%) (達成) 令和2年12月 9市町 令和3年1月 1市 令和3年3月 2市 (2) 1,480枚(R2年12月～R3年3月) (3) 市町村からは、カード交付枚数のみ報告のため、参加人数が把握できない。また、市町村によっては、参加者の個人情報を把握していないところがあり、年齢別参加者の把握ができない。 (4) 458店舗・達成率 91.6%(R2年度末)(未達成) 【地域別】 ◇ベイ・東葛飾：232店 ◇北総：182店 ◇九十九里：17店 ◇南房総：27店 【協賛店がない市町村数】 15市町</p> <hr/> <p>(長期的なアウトカム評価) ○評価項目の現状値 県の健康寿命の延伸 男性 72.37(H28年) 女性 75.17(H28年) その他、健康ちば21(第2次)評価指標の進捗状況で、今後評価していく。</p>
<p>総合評価</p>	<p>【全般】 事業が円滑に進むよう、委託業者と13回打合せを行い、進捗状況や課題の整理、解決策等について確認した。新規事業であり、カード名の決定、カードの作成、啓発物の作成(ポスター、チラシ、のぼり旗、ステッカー、周知動画等)、実施要綱、専用Webサイト作成等、委託業者と連携を取りながら事業の仕組みや基盤づくりを行うことができた。 【市町村の事業参加】 多くの市町村が参加できるようオンラインでの参加を可能とした市町村説明会を8月に2回開催した。事前に現状調査で把握した課題について、説明会で解決策を示すとともに、終了後に個別相談の時間を設け、課題解決に努めたことにより、令和2年12月の事業開始時点で9市町村、令和3年3月末日時点では12市町村(22.2%)と連携開始ができた。 【協賛店獲得】 事務局からの働きかけの他、県から広報や関係団体へ協力依頼等を実施したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う国の緊急事態宣言発令等により、事業を縮小する店やリモートワークによる担当者不在等の影響があり、年度当初目標の500店舗の達成が難しかった。 【庁内連携】 市町村国庫補助制度を取りまとめている高齢者福祉課と保険指導課へ働きかけ、市町村の介護部門、国保部門へ本事業の周知や参加を促してもらった。また、両課と事前調整を行い、市町村説明会で、市町村への財政的メリット等について紹介することができた。高齢者福祉課主催の市町村健康関係担当者連絡会では、当課の担当が本事業について説明を行った。また、当課主催の市町村担当者会議には両課の担当が出席する等、随時連携を取りながら進めることができた。 【次年度へ向けて】 ・ 令和3年4月中旬に5市町村と連携開始予定である。5月以降も連携開始予定の市町村がスムーズに連携が開始されるよう、調整を行うとともに、連携開始予定がない市町村に対しても連携開始に向けた働きかけを行っていく。 ・ 連携市町村を増やすため、各市町村の抱える課題を改めて把握し、必要に応じて仕組みの修正(要綱の見直し、アプリ・システムの導入の検討等)や市町村説明会・ちばチャレ通信等で事例紹介を行い、連携を働きかけていく。 ・ 全ての市町村での協賛店獲得を目指す。協賛店の獲得には、直接働きかけることが効果的であったことから、協賛店が少ない地域に、事務局、県から働きかける他、市町村や保健所へ周知の協力をしてもらう。 ・ 市町村の周知用チラシ等を増刷し、事業の周知を強化する。また、市町村広報誌に掲載する等、事業の広報に協力をしてもらえよう働きかける。</p>			

